

人間の安全保障に関するハイレベル・イベント

平成23年5月
外務省地球規模課題総括課

2013年5月8日、国連本部において、人間の安全保障に関するハイレベル・イベントが開催されたところ、その概要以下のとおり。

本イベントには、潘基文国連事務総長、エリアソン国連副事務総長、クラーク国連開発計画（UNDP）総裁、緒方貞子人間の安全保障委員会共同議長（外務省顧問・JICA 特別顧問）、スリン人間の安全保障委員会委員（前 ASEAN 事務総長、元タイ外相）のほか、各国国連大使、国連機関代表、NGO 関係者等、約 500 名が参加した。

- 1 本イベントは、2012年9月に採択された人間の安全保障に関する国連総会決議（注：人間の安全保障の共通理解に国連加盟国間で初めて合意したもの）をフォローアップし、人間の安全保障の実践を国連内外で推進することを目的として開催された。また、人間の安全保障諮問委員会、国連加盟国、国際機関等の関係者が、人間の安全保障について直接議論する初めての機会となった。
- 2 潘基文事務総長が冒頭挨拶を行い、①世界の相互に関連した課題には包括的対処が求められ、②この包括的な取組は、幅広い基盤を持つべきであるとの二つの教訓を我々は学んだ、人間の安全保障はそのような我々の努力を後押しするものである旨述べた。さらに、国連人間の安全保障基金に対する日本政府の貢献に対する感謝を述べるとともに、他の援助国に対し貢献を呼びかけた。
- 3 緒方貞子氏は、国連難民高等弁務官の経験から人間の安全保障の有効性が明らかになった旨述べるとともに、人間の安全保障委員会の共同議長としての報告書の提出（注：本年は2003年の報告書“Human Security Now”（「安全保障の今日的課題」）から10年の節目に当たる）、JICA 理事長としての取組等に言及しつつ、国連人間の安全保障基金の活動により多くの国連加盟国が関与すべきこと、人間の安全保障がポスト 2015 年開発目標（ポスト MDGs）の指導理念となるべきと述べた。
- 4 クラーク UNDP 総裁は、1994年の人間開発報告書で初めて人間の安全保障に言及したことに触れつつ、人間の安全保障は UNDP の活動と関連性が高く、人々の生活を脅かす原因を深く分析し、開発・人権・平和を包含するイニシアティブを可能とする旨述べた。また、閉会の挨拶を行ったエリアソン副事務総長は、人間の安全保障は、人間を中心とした活動に導く概念であり、現場で何を結実させ、成果を上げるかが重要である旨強調した。
- 5 このほか、参加者の間で、これまでの人間の安全保障の実践から学んだ教訓や人間の安全保障の推進の在り方について、活発な議論が行われた。また、人間の安全保障基金に関する外部評価の結果が紹介され、人間の安全保障の付加価値、有効性が証明された旨報告された。

（了）